

保護者の皆さま

吹田市立藤白台小学校
校長 木下 政治

平成30年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「平成30年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また、吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年を対象とした調査であり、教科も国語・算数・理科に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査の分析

●国語

《概要》

- ・国語A【主として「知識」に関する問題】 正答率が、全ての設問で全国及び大阪府を上回っている。
- ・国語B【主として「活用」に関する問題】 正答率が、全ての設問で全国及び大阪府を上回っている。

《各領域における成果と課題》

話すこと・聞くこと

- ◎国語Aの相手に図書館への行き方を説明する問題は、よくできている。「相手や目的に応じ、自分が伝えたいことを、事例などを挙げながら筋道を立てて話すことができる」に関しては、概ね達成できている。

書くこと

- ◎国語Aの記述式の問題において、平均正答率が全国及び大阪府を大きく上回っている。
- △国語Bの、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる問題は、全国及び大阪府を上回ってはいるものの、正答率は高くない。その理由として、相手の話を聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点などを整理しながらまとめる経験が少ないと考えられる。
- △国語Bの、目的や意図に応じ内容の中心を明確にして詳しく書く問題では、全国及び大阪府を上回っているものの、正答率は高くない。その理由として、推薦する文を書くときに、文章の冒頭部に自分の考えの中心を位置付けることで、相手の理解が明確になる効果があるということに気づけていないと考えられる。

読むこと

- ◎国語Aの全ての問題において、平均正答率が全国及び大阪府を上回っている。
- △国語Bの伝記について読み取る問題では、全国及び大阪府を上回ってはいるものの、問題文だけに着目して間違った解答をした児童も多くいると考えられる。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ◎国語Aの漢字の問題において、平均正答率が全国及び大阪府を上回っている。
- △国語Aの、主語と述語の関係などに注意して文を正しく書く問題は、正答率が6割以下である。主語と述語、修飾と被修飾との関係をはっきりさせたり、「いつ」、「だれが」、「どこで」、「なにを」、「どのように」、「なぜ」といった文の構成を捉えられていなかったりする児童がいると考えられる。

《今後の指導改善点》

書くこと・読むこと

- ・自分の考えたことや伝えたいことを相手に伝わるように書くためには、目的や意図に応じて、複数の資料から適切な情報を選択し、詳しく書く必要があります。そのため、次のような指導を行っていきます。
- ①読み取りの際には、事実と感想・意見などを区別し整理できるように指導するとともに、接続語（また、しかし、このようになど）の役割や使い方を練習します。書く際にも、事実と感想・意見などを区別したり、接続語を使ったりして文章を書く力をつけます。
- ②意見文や推薦文などを書く際に、得た情報の中から目的や意図に応じて内容を選択し、何を、どのように取り上げたら詳しくて効果的になるかを整理して書く学習を行います。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・文の中における主語や述語の関係などに注意して、文を正しく書けるようになるために、他者に向けて話す機会を増やしたり、目的や相手を明確にした実用的な文章を書いたりする機会を増やしていきます。

(低学年) 語彙数を増やしながらか、主語・述語の関係を意識させる。

(中学年) 実用的な文章を視写したり、書いたりする。

(高学年) 要約の練習をする。

●算数

《概要》

- ・算数A【主として「知識」に関する問題】 平均正答率が、全国及び大阪府を10%以上、上回っている。
(領域別でも、4領域ともに上回っている。)
- ・算数B【主として「活用」に関する問題】 平均正答率が、全国及び大阪府を10%以上、上回っている。
(領域別でも、4領域ともに上回っている。)

《各領域における成果と課題》

数と計算

- ◎十進位取り記数法で表された数の大小について理解している。
- ◎折り紙の輪の色の規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を判断することを理解している。
- △答えが $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を選ぶといった、小数の除法の意味 についての理解に課題がある。

量と測定

- ◎異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解している。
- ◎図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が 360° になっていることを理解している。
- △示された考え方を解釈し、ほかの数値の場合を表に整理し、条件に合う時間を判断することに課題がある。
- △ 180° や 360° を基に分度器を用いて、 180° より大きい角の大きさを求めることに課題がある。

図形

- ◎直径の長さや円周の長さの関係については理解できている。
- ◎図形の性質をもとに、合同な図形であることを証明したり、内角を求めたりする方法を説明することができる。
- △円周率の意味についての問われる問題についての正答率が低い。

数量関係

- ◎記述の問題でも、無回答の割合は、全国値と比べて低かった。
- △文章の内容とグラフを関連付けて考える問題の正答率が低い。文章の読み取りが不十分であることが考えられる。
- △2つのグラフ(棒グラフと帯グラフ)を関連付けて読み取る問題の正答率が低い。個々のグラフの読み取りはできるが、2つの数量を比較しながら考察することが苦手であると考えられる。

《今後の指導改善点》

- ・円周率や公式などを覚えさせるのではなく、日常生活や身のまわりの題材を用いて体験的に求め、角度や数量の感覚を養います。
- ・問題場面を図や数直線などを用いて、数量の関係を的確に捉え、立式する活動を大切にします。
- ・日常生活の問題の解決のために、試行錯誤するなどして情報を収集し、それらを表に整理して、条件に合う事柄について適切に判断することを指導していきます。
- ・ 180° よりも大きくなることを捉え、 180° を超えた部分の角の大きさや 360° に足りない部分の角の大きさについて、1直角の大きさを基に見当を付ける力を育てます。
- ・算数科でも、文章の読み取りや理解したことを説明するなどの言語活動を充実させます。
- ・社会科や理科、総合的な学習などの学習においても、グラフの読み取りを重要視して指導します。また、児童自身が調べたことをまとめる際にも、効果的なグラフ、資料の活用ができるように指導します。

●理科

《概要》

- ・理科【主として「知識」に関する問題】 正答率が、概ね全国及び大阪府を上回っている。
- ・理科【主として「活用」に関する問題】 正答率が、全ての設問で全国及び大阪府を上回っている。

《各領域における成果と課題》

物質

- ◎ろ過の適切な操作方法についてよく理解できている。
- ◎海水と水道水を区別するためのいくつかの方法について理解できている。
- △食塩を水に溶かした際の全体の重さが、溶かす前の食塩と水の重さを合わせたものと変わらないということについての理解が乏しいところがある。
- △水溶液を蒸発させた際の実験結果について、不足のある説明に対して、適切に判断し、補足の説明を加えることについて課題がある。

エネルギー

- ◎乾電池が、＋極から－極に向かって流れる電流の向きについて理解できている。またその大きさについても理解できている。
- △光電池に特定の時間帯のみ太陽光が当たる装置を作るために、理解しておくべき太陽の動きについての知識には課題がある。

生命

- ◎鳥のひなの観察や、鳥の翼や人の腕の骨と骨とのつながりについては、理解できている。
- △ヒトの腕の模型を使って、腕の骨と筋肉のつくりや働きについて説明することに課題がある。

地球

- ◎川の曲がっている箇所を流れる水の働きにより、外側が削られる侵食の働きや、内側に流れてきた土や石が積もる堆積の働きについては理解できている。
- △流れる水の量が変わると、地面のけずられ方がどう変わるかを観察して、そこから考察できることを記述することには課題がある。

《今後の指導改善点》

- ・食塩を溶かすなどの実験で、実感を伴って理解できるように、過程を確認しながら行うことを大切にします。
- ・「太陽の位置や動き」と「光電池」など、異なる分野の2つの学習を結び付けて考える学習を行います。
- ・骨と筋肉といった身近なことに対して、理科的な用語や考え方をを用いて表現する学習を充実させます。
- ・実験結果について原因と結果を区別し、その関係を整理して聞き手に伝わるように説明する活動を行います。

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【規範意識・自己有用感等について】

- ・「人の役に立つ人間になりたい」、「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童の割合は全国値を上回っている。
- ・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」と感じている児童の割合は全国値を上回っているが、「自分には、よいところがあると思う」と感じている児童の割合は全国値を下回っている。
- ・「学校のきまりを守っている」と8割強の児童が感じているが、全国値は下回っている。

- 子どもができることは大人から任せたり、上級生が下級生に教えたりなど、子どもが主体的に活躍できる場を設定して、自己有用感を味わえる機会を充実させます。
- 「自分には良いところがある」と思えるように、個々人の良さを教師が適切な言葉に表して褒め、伸ばしていくとともに、子ども同士でも認め合い高め合えるようにします。
- 学年行事や、交換授業などで、担任だけでなく、教師みんなで子どもたちを見るという姿を示し、自分たちが多くの人から見られて認められていると感じられるようにします。
- きまりをクラスでふりかえる機会をもつことで、守れているきまりを認めるとともに、守れていないきまりをはっきりとさせ、そのきまりの意義を確認していきます。掲示物を活用し、きまりが意識できるようにします。

【基本的生活習慣等について】

- ・「家の人（兄弟姉妹は含まない）と学校での出来事について話をする」児童の割合は、全国値を上回っている。
- ・「朝食を毎日食べている」児童と「毎日、同じくらいの時刻に起きている」児童の割合が、ともに全国値を下回っている。

- 早寝早起き・朝ごはんなど、健康的な生活の大切さを、保健だよりや給食だより等も活用しながら、日ごろから伝えていきます。夏休み・冬休みの宿題として出している「朝ごはんカレンダー」の取り組みも、考えるきっかけとして取り組んでいます。ご家庭の方でも、ご協力よろしくお願いします。

【学習習慣等について】

- ・「平日に、学校以外で、1日当たり1時間以上、勉強をしている（学習塾や家庭教師の時間も含む）」児童の割合は、全国値を上回っている。

【地域や社会に関わる活動の状況等について】

- ・「授業や課外活動で地域のことを調べ、地域の人と関わる機会がある」児童の割合は、全国値を上回っており、また「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」という児童の割合も全国値を上回っている。

【算数や理科の学習について】

- ・「算数の勉強は大切だと思う」児童の割合は、全国値をやや下回っているが、「算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思う」児童の割合は、全国値を上回っている。
- ・「理科の勉強は大切だと思う」児童の割合が、全国値をやや下回っている。

- 算数や理科の学習が実社会で役に立つという実感がともなうように、日常生活に関わる身近な事象を取り上げたり、興味をひくたとえ話から課題を設定したりといった工夫をしていきます。また、学んだことを活かして作品を作るなど、体験的な活動につなげる学習を行います。

【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】

- ・「発表では、考えがうまく伝わるよう、資料や話の組み立てを工夫している」児童の割合は、全国値を上回っている。
 - ・「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできている」児童の割合は、全国値を下回っている。
- 研修を通して教員の授業力を高め、問題解決的な学習や、自分の考えを表現し相手と話し合う言語活動を、より効果的に行っていきます。
 - 自分の考えを深め広げるといった目的意識をもって話し合い、授業の最初と比べて子どもたちの成長したことを教師が見取って、ふり返らせる学習をしていきます。